

小学校英語指導のための 教員研修システム構築

小学校における英語指導を取り巻く環境は、近年めまぐるしい変化を遂げています。指導方法に課題を抱える現場の先生方の支援に向け、大学院生派遣による研修システム開発に取り組みます。



研修の様子（手本の実演）

活動の概要

目的	小学校（英語活動）における持続可能な校内教員研修システムの構築
連携メンバーおよび役割	吹田市内の教育課程特例校（※）…教員研修システム受入にかかる校内調整 ※教育課程特例校…学校や地域の特色を生かした特別の教育課程を編成することができる学校 （吹田市では小学1年生からの外国語活動などを編成） 吹田市教育委員会…関係者間の調整 関西大学外国語学部教授 池田真生子（代表）／同学部教授 今井裕之（分担者）／同学部教授 竹内理（分担者）…教員研修システムのコンテンツ開発、小学校教員の意識および指導状況調査、派遣大学院生の育成 関西大学外国語教育学研究科卒業生…派遣大学院生への事前教育 関西大学外国語教育学研究科大学院生…研修の講師役、研修教材作成
活動地域	大阪府吹田市内の教育課程特例校／関西大学千里山キャンパス
活動期間	2015年4月～（継続中）

連携の経緯

現在、小学校における英語教育を取り巻く環境は激しい変化にさらされており、現場では指導に関する多様な課題が生じている。これまで英語指導に関する研修の講師として多くの小学校を訪問してきた池田、今井、竹内は、それらの課題の解決に向けて研究テーマを設定。吹田市教育委員会の協力を得て、教育課程特例校の指定を受けた吹田市内の小学校をフィールドに、持続可能な英語教育研修プログラムを開発することとなった。

解決すべき課題

- (1) 英語指導方法に関する研修制度の未整備



研修の様子（グループワーク）

研修の様子（導入）

大学の役割

本活動では現場の教員が抱える課題の可視化を起点として取り組みを開始した。

まず、現場の教員へのグループインタビューを通じた英語指導にかかる意識および指導状況調査を通じて、以下の課題を明らかにした。

- ① 頻繁に変化する指導内容に対応した研修制度が未整備
- ② 外部講師を招いた研修を実施したとしても人選および費用の面で継続が困難

そこで、持続的かつ（指導内容の変化に）柔軟な教員研修システムの整備を具体的施策として設定。従来の、教員が直接研修を行う形ではなく、英語教育を専門とする外国語教育学研究科の大学院生を派遣する方法を考案した。派遣する大学院生に対しては、事前に、小学校英語に関する専門的知識と豊富な事務経験を持ち合わせた外部講師（外国語教育学研究科修士、教員経験者）による特別なトレーニングを課している。その後、各小学校へ支援員として2名1組で派遣し、研修を実施している。2015年度には一定程度の成果が確認されたが、本年度もさらに改善を加え、昨年度からの継続校および本年度からの新規校において引き続き本活動を実施・調査している。

この活動は、小学校教員の英語指導に関するスキルを向上させ不安を軽減するだけでなく、教員を目指す大学院生にとっては、実務を身近に感じる経験を得ることとなる。また、吹田市にとっても研修のモデルケースが確立されれば市全体の教員の利益にも繋がっていくと考えられる。今回の取り組みを主軸として、英語指導に秀でた人材の輩出を目指していく。

今後の展望

- 課題
- (1) 生活パタンの異なる小学校教員と大学院生間の各種調整
 - (2) 研修システム確立にかかる経費捻出
- 展望
- (1) 教員研修システム確立
 - (2) 研修実施後の教員や大学院生などへの追跡調査

研究者の紹介



外国語学部 教授
池田 真生子
（いけだ まいこ）

英語教育学を専門とし、学習方略の指導に関する研究を中心におこなっている。最近では、方略指導における他者の役割（協働学習）、小学校英語教育などにも研究の幅を広げている。



外国語学部 教授
今井 裕之
（いまい ひろゆき）

専門は英語教育学。教室でのコミュニケーションを通じた外国語学習を研究している。また、その成果を評価するスピーキングの開発も行っている。



外国語学部 教授
竹内 理
（たけうち おさむ）

専門分野は、英語教育学（学習方略、学習者要因）と外国語教育におけるメディアの利用。研究の知見を生かした検定教科書の執筆なども行っている。